

県 昭和44年10月1日～2日

- ④ 会場 地区 各地区ごとに設定（16会場）
- 県 いわき市立泉小学校

(3) 中学校教育課程研究協議会道徳部会

① 研究主題

「道徳教育の本質にせまるための授業を、どのように組織したらよいか。」（44～46年度）
 —— 道徳教育の本質をとらえ、授業のしくみをどう改善したらよいか。 ——（44年度）

- ② 主催 県教育委員会、県中学校教育研究会、関係市町村教育委員会
- ③ 期日 地区 昭和44年7月24日
- 県 昭和44年9月25日
- ④ 会場 地区 各地区ごとに設定（16会場）
- 県 会津若松市立第二中学校

(4) 昭和44年度道徳教育福島県講習会

① 趣 旨

小学校・中学校における道徳教育の充実・徹底を期するため、道徳教育における基本問題および指導上の諸問題を解明し、教職員の資質の向上をはかる。

- ② 主催 文部省、県教育委員会
- ③ 主題

- 道徳教育全体計画の必要性と作成
- 道徳の年間指導計画作成
- 道徳の授業の指導過程と指導方法
- 資料の選択、収集、整備と活用
- 改正小・中学校学習指導要領（道徳）
- その他各地区の実情に即した主題

④ 会場・期日

ア. 小学校

(地区名)	(会場)	(期日)
○伊 達	保 原 小	8月11日～12日
○信 夫	福 島 四 小	8月18日～19日
○安 達	二本松南小	8月11日～12日
○郡 山	橋 小	8月11日～12日
○岩瀬・石川	芳 山 小	8月11日～12日
○田 村	船 引 小	8月18日～19日
○西白河・東白川		
	棚 倉 小	8月11日～19日
○北会津・両沼		
	謹 教 小	8月11日～12日
○耶 麻	喜多方三中	8月11日～12日
○南 会 津	田 島 小	8月11日～12日
○相馬・双葉	浪 江 小	8月11日～12日
○いわき	平 一 小	8月11日～12日

イ. 中 学 校

(地区名)	(会場)	(期日)
○伊達・信夫・安達		
	福島二中	7月30日～31日
○郡山・岩瀬・石川		
	郡山二中	7月30日～31日
○田 村	船 引 中	7月30日～31日
○西白河・東白川	棚 倉 中	7月30日～31日

○北会津・耶麻・両沼

- 若松二中 7月30日～31日
- 南 会 津 田 島 中 7月30日～31日
- 相双・双葉 原町一中 7月30日～31日
- いわき 平 一 中 7月30日～31日

(4) 道徳教育研究学校の指定

次の学校が、文部省の昭和44年度道徳教育研究校として指定を受けた。

学校名ならびに研究主題は次のとおりである。

- 「道徳的判断力を高める指導」
石川町立中谷第一小学校 校長 吉田 威一
- 「道徳の時間における指導過程の研究」
棚倉町立棚倉小学校 校長 蛭田 俊之
- 「道徳の時間の効果的指導法の研究」
— 指導過程における資料の位置づけ —
いわき市立泉小学校 校長 志賀 功
- 「実践化をはかる道徳教育のくふう」
福島市立福島第三中学校 校長 佐藤 厚友
- 「自主的实践意欲を高める道徳教育」
— とくに道徳の時間を中心として —
会津若松市立第二中学校 校長 佐久間興一
- 「自主性を高めるために、道徳の時間の指導はどのようにすべきか」

大野町立大野中学校 校長 笠井小一郎

次の学校を、県教育委員会の昭和44年度道徳教育研究校として指定し、実践的研究を推進した。

学校名ならびに研究主題は次のとおりである。

- 「態度化をめざす指導過程はどうすべきか」
保原町立保原小学校 校長 村上 四郎
- 「道徳の時間における内面化をはかる指導はどのようにしたらよいか」
下郷町立檀原小学校 校長 長谷川 久
- 「内面化をめざす指導過程の研究」
郡山市立日和田中学校 校長 山崎 芳郎
- 「実践化をめざす道徳の時間の指導はどのようにすればよいか」
白河市立白河中央中学校 校長 田辺 易

(6) 道徳教育用教材設備購入の補助

道徳教育の振興充実をはかるため、県教育委員会は、県内の小・中学校に対して、道徳教育用教材設備購入費の補助を行なった。

補助限度額	10,000の $\frac{1}{2}$
補助対象校数	小学校 256校
	中学校 108校
	計 364校（うち分校21）

(7) 国旗敬愛パンフレット作成配布

すべての県民が、国旗に対して深い関心をよせ、正しい理解が得られるようにするとともに、国旗に対する敬愛の精神を高揚し、郷土や国を愛し、その発展につくそうとする心情をつちかうために、国旗敬愛パンフレットを作成し、各市町村教育委員会、小学校第5学年全児童・中学校第2学年全生徒に配布するとともに、道徳教育の充実をはかった。